『筑波日本語研究』第十六号 筑波大学人文社会科学研究科日本語学研究室 2011

否定からみる「テイル」の意味

劉　剣

キーワード：シテイル、シテイナイ、シタ、シナカッタ

要　旨

本論文はシテイナイを中心に考察を行い、シテイナイとシナカッタの違いを明らかにした上で、シテイナイの意味特徴には「区間性」という特徴があることを主張した。その肯定形式の「シテイル」の意味特徴にも「区間性」という特徴があると推論している。

1. 問題の提起

日本語の肯定と否定には、非対称性を示す場合がある。以下の例文をみられたい。

(1) ——食べた？
　　——はい、食べた。
(2) ——食べた？
　　——いいえ、食べなかった。
　　——いいえ、食べていない。

同じ質問「食べた？」に、一般的に肯定の答えは一つ[*1]であるのに対し、否定の答えは二通りある。一つは質問と同じ形式、すなわち「タ」形をとる「食べなかった」であり、もう一つは、質問と違う形式、「テイナイ」形をとる「食べていない」である。

質問に対する答えは質問と同じ形式を取るのが一般的である。つまり、「食べ

*1　「食べている」という答えはないわけではない。ただ、コーパス調査の結果によって、「ている」形の答えは極めて数が少ないので、「一般的」には入らない。

た？」という「タ」形の質問には、「食べなかった」という「タ」形の答えが最も論理的に正しい。しかし、形式的に全く対応しない「テイナイ」形の答え「食べていない」も文法的であり、自然な答えである。しかも、多用される答えである。

ここで問題が二つ浮き上がってくる。一、なぜ肯定の答えは普通一つしかないのに、否定は二つあるのか？ 二、答えが質問と形式的に対応する必要があるという一般化できる論理から逸脱している「テイナイ」形は、一見よそ者みたいな存在であるものの、実際に多用されるのはなぜなのか？

寺村（1982）によると、「シタ」には二つの意味用法がある。一つはテンスの用法で、「過去の事実」を表すもの、もう一つはアスペクトの用法で、「現在における既然」を表すものである。肯定より、否定の場合にその違いが顕在化すると指摘されている。以下は寺村（1982）からの引用である。

一般に、問における「タカ？」が、単なる過去を表していると判断したときは、たとえば、

(3) *2 ——彼の話はよく解ったか？
——いや、よく解らなかった。

のように、「～シナカッタ」となるが、現在における既然を表しているととった場合は、たとえば、

(4) ——私の言いたいことはこうこうだ。どうだ、解ったか？
——いや、まだ解らない。
(5) ——船はもう決まったかい？
——いや、まだ決まっていない・決まらない。

のように、「～シテイナイ」または「～シナイ」となり、「～シナカッタ」とは言わない。

寺村説をまとめてみると、「過去の事実」を表す「シタ」の否定は「シナカッタ」

*2 番号は本論文によって改訂、表記一部改訂。

形式であり、「現在における既然」を表す「シタ」の否定は「シテイナイ」（または「シナイ」[*3]）形式である。この説明をもちいて先の問題はうまく解決できるように見えるが、しかし、やはり問題が残っている。つまり、「シタ」という一つの形式が二つの意味機能を担うならば、なぜ「シナカッタ」という一つの形式は一つの意味機能しか持っていないのか。いいかえれば、「現在における既然」という用法はなぜ肯定形式の「シタ」にはあるのに対し、否定の「シナカッタ」にはないのかという問題である。

この問題については、本論文では以下のように説明する。

まず、現代日本語における「タ」は「過去の事実」を表すのが一般的であるが、それ以外、「現在における既然」の用法は、歴史的に「タリ」に連続することが原因であると考えられる。「タリ」は完了助動詞と呼ばれ、「完了」を表すことが多くの先行研究に認められる。本論文では、「現在における既然」（寺村の用語）、「パーフェクト相」（工藤の用語）、「完了」を区別しないことにする。つまり、完了助動詞「タリ」の完了の意味用法は「タ」に残っているため、「タ」には完了、いわゆる「現在における既然」の用法がある。

次に、以上述べた二つの意味用法は「タ」の意味のポテンシャルであることを明らかにしなければならない。言い換えれば、具体的なコンテクストにおいていると、「タ」は両方の意味用法が同時に実現されるのではなく、いずれか一つの意味用法しか実現されない。どの意味用法が実現されるかは「タ」に前接するもの（述部）による。「タ」に前接するものは、動作性のあるもの（たとえば動作動詞）であれば、両方の意味が実現される可能性はあるが、「タ」に前接するものは、動作性のないもの（たとえば形容詞）であれば、テンス（「過去の事実」）の意味しか実現されない。なぜかというと、動作性を持っているものだけがアスペクチュアリティを持ち、動作性のないものはアスペクチュアリティを持っていないからである。アスペクチュアリティを持っていないものはアスペクト（現在における既然）の意味用法も持たないのは当然のことである。たとえば、形容詞「美しい」は動作性を持っていない。よって、アスペクチュアリティも持っていない。そのため、「美しい」の「タ」形「美しかった」はアスペクトの「現在における既然」「完了」の意味を表せない。過去の事実だけ、つまり、テンスの意味・用法しか持っていない。

「シナカッタ」の場合、「タ」に前接するのは「シナイ」であり、「シナイ」は工

*3 「シナイ」に関しては別の論文で考察するようにする。

藤（1996）が指摘したように、「非アクチュアル化」の事象である。そのため、「シナイ」も形容詞と同様、動作性を持っていない。よって、アスペクチュアリティも持っていない。したがって、「シナイ」+「タ」⇒「シナカッタ」における「タ」はアスペクトの意味（「現在における既然」/「完了」）が実現されず、テンス（「過去の事実」）の意味だけが実現しうる。

以上をもって、「シタ」と「シナカッタ」は非対称性を示すことがわかった。つまり、「シタ」は「過去の事実」と「現在における既然」という二つの意味用法があるのに対し、「シナカッタ」の意味用法は制限されており、「現在における既然」の打ち消しを表せない。

表1

	シタ	シナカッタ
過去の事実	○	○
現在における既然	○	*

以上の表1における*の穴は、「シテイナイ」が埋めている。つまり、「現在における既然」の打ち消しという機能は「シテイナイ」という形が担う。それはなぜなのか？ 井上（2001）は、そのことを、「シテイナイ」以外の否定形式（すなわち「シナイ」、「（結局）シナカッタ」）の使用に関する制約が厳しいことの反映であると指摘したが、本論文はこの観点を認めるものの、さらに一歩進んで、「テイナイ」そのものにも原因が潜んでいるという立場に立つ。

2. 「シテイナイ」に関する調査および分析

1節では、「シタ」と「シナカッタ」の非対称性を述べ、そして、対称的でないところの穴は「シテイナイ」が埋めていることを確認し、それはなぜなのかという問題を提起した。この問題を解決するためには、「シテイナイ」の意味を明らかにしなければならない。したがって、「シテイナイ」の使用実態を中心に、「現代日本語書き言葉均衡コーパス・少納言（BCCWJ）」を用いて用例調査を行った。「ていない」という項目で検索したところ、36561のヒット数で、そこからランダムに1000例を取った。まず、連体修飾語や「シカ」と共起したものなど分析できない用例を

除くと、674 例が残り、これを分析対象とした。これらの対象を用いて、先行研究を踏まえた上で、「シテイナイ」の意味特徴を再分析する。674 例の内訳は以下のようになった。

表2

意味	動作進行ではない	結果残存ではない	単なる状態ではない	動作・変化の実現に至らない	経験がない・反復ではない	うまく判断できないもの	計
用例数	203	84	6	276	56	49	674
パーセンテージ	30.1%	12.5%	0.9%	40.9%	8.3%	7.3%	100%

表２から、「シテイナイ」の意味特徴については、以下のようなことが言える：

第一に、「シテイル」と「シテイナイ」の間には、「シタ」と「シナカッタ」の間に示した非対称性は見られない。工藤（1995）が指摘したように「テイル」の基本的意味は「動作継続」と「結果残存」であり、派生的意味として、パーフェクト・反復の意味もある。表２の「動作・変化の実現に至らない」という項目はパーフェクト相の否定と基本的に意味が同じなので、「テイル」の基本的意味と派生的意味のそれぞれの用法に、対応している「テイナイ」の用法がすべて見つかった。

たとえば、動作進行の打ち消しを表す用例は以下のような例文が挙げられる。

(6) 母はひと滑りすると、必ずスキーをはいたまま小屋の窓の近くまで行って、千夏が起き出して泣いていないかを確かめた。寝ているようだと、もうひと滑りということになる。

(7) ところが、おしゃべりをしていて聞いていない生徒もいる。注意をすると、おしゃべりはやめるが横を向いたまま。

結果残存の打ち消しを表す用例は以下のような例文が挙げられる。

(8) チェルサは薄いコットンの下になにも身につけていない 。

(9) デバイスマネジャーの中にDVカメラのドライバ関係の表示がない又は？、！

マークがついていないか確認を。

単なる状態[*4]の打ち消しを表す用法は以下のような例文があげられる。

(10) 「...」よしのは言うと、膝の上の猫を追って、意外に軽い身のこなしで立ち上がった。坐っているときはまるく見えたが、立ち姿は、ほとんど腰が曲がっていない。

パーフェクト相の否定に相当する「動作・変化の実現に至らない」を表す用法は以下のような例文が挙げられる。

(11) 母の美知に、だんだんと物忘れや呆けが目立ってきました。食べたばかりなのに、「まだ食べていない」と言ってもう一度夕ご飯を食べたり、孫の博美のおかずをいつの間にか食べてしまったりするのです。
(12) それなのに田中首相は国民が食いたくもない列島改造という料理の調理をまだあきらめていない。

経験の打ち消しを表す用法は以下のような例文が挙げられる。

(13) 大学病院では予防接種をしていないことが多いので、小児科クリニックや一般病院小児科での予防接種を十分に体験しよう。

動作反復・習慣を表す用法は以下のような用例が挙げられる。

(14) 最近ラジオ放送を聴いていない。

第二に、工藤（1995）によると、「テイル」の各意味では、「動作継続・結果残存」が基本的なものであり、「パーフェクト相」が派生的なものである。「テイル」のコーパス調査の用例数からも同じ傾向が見られる。つまり、「パーフェクト相」の意味の用例数より、「動作継続・結果残存」の意味の用例数の方は圧倒的に多い。そ

*4 金田一分類の第四種動詞。

れに対して、「テイナイ」の調査結果においては、「パーフェクト相」否定の用例は、「動作継続・結果残存」の否定の用例数とほぼ等しい割合を占める((30.1%+12.5%=) 42.6% / 40.9%)。用例数から見ると、「テイナイ」のパーフェクト相の否定の意味は派生的なものにとどまらないように見える。工藤(1996)も

肯定のシテイル形式の場合と違って、否定のシテイナイ形式においては、継続性の否定よりも、パーフェクト性の否定のほうが優勢かもしれない。

との指摘がある。以下は工藤(1996)にあげられた例である。

(15)[*5] 私は聞いていません(見ていません、会っていません)。
(16) どうするか、決めていません(知られていません)。
私は、落としていません(殺していません)。

(15)(16)のような例において、まずイメージするのは、動作の継続性の打ち消しではなく、パーフェクト性の打ち消しではないだろうかと説明した。ただし、工藤(1996)はこの事実を述べるにとどまって、さらなる記述や分析を行わなかった。

1節で述べた「シタ」と「シナカッタ」の間の穴を埋めたのも、「テイナイ」のこの意味の用法である。以下はコーパスから抽出した例である。

(17) １２月７日に決定なんと、まだ決まっていない…。
(18) みのさんは簡単にまとめるだけ。しかも、まとまっていない。
(19) まだ結婚はしていないが、そろそろ…と思ってるし。

「テイナイ」のこの意味については、寺村(1982)は「今のところ、(動作・変化)は実現に至らない」、工藤(1996)は「パーフェクト相(現在)の打ち消し」、井上(2001)は「実現想定区間」内に該当する出来事は存在しないとそれぞれの観点から解釈した。本論文は「運動が実現しないままという状態がある設定された時点において、引き続いている」という意味であると規定する。このことは従来の三説と大きな違いはない。ただし、ここで主張したいのは、運動が実現しないままと

*5 番号、表記は本論文によって一部改訂。

いう状態が引き続いているのは、設定された時点までだけではなく、もうしばらく続いていくという含意がある一方で、いつかその状態（実現しないままの状態）が終わり、あたらしい状態（運動が実現するという状態）にはいる可能性も残っていることである。このことについて、寺村（1982）も工藤（1996）も指摘した。たとえば、(20) は寺村（1982）にあげられた例である。

(20) *6 お宅の柿の木は大きくなりましたか？
　a.　いや、大きくなりませんでした。
　b.　いや、まだあまり　大きくなっていません。
　　大きくなりません。

(20b) の「いや、まだあまり大きくなっていません」については、以下のような説明がついている。

これからも伸びるだろうが、今のところは「大きくなる」ことがまだ実現するに至らない。

「これからも伸びるだろう」というところに注意されたい。また、工藤（1996）も以下のような似た説明をした。

肯定的想定が、現在あるいは現在までにアクチュアル化していないことを表すのだが、ここには、＜アクチュアル化の可能性＞はまだ残されている。

まとめると、「テイナイ」は今のところ実現しないままの状態（状態①とする）が続いているだけでなく、これからももうしばらく続いて及んでいくが、しかし、いつかそのうち状態①は終わり、「実現した状態」（状態②とする）にはいる可能性が残っているという意味を表す。つまり、「テイナイ」のいわゆる「効力」の及ぶ範囲はある程度限られたものであると思われる。出来事の起こる時点はその end-point である。図で示すと以下のようになる。

*6　番号、表記は本論文によって一部改訂。

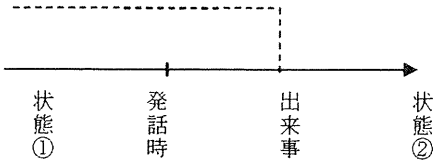

図1

(20b) を例にすると、「柿の木がまだ大きくなっていない」状態（状態①）は今のところ（発話時）は確かに引き続いてきただけでなく、これからもうしばらく続いていくが、しかし、永遠につづくわけではなく、そのうちに終わって（「大きくなった」という出来事が起こった時点で）、そして、「柿の木は大きくなっている」という新しい状態（状態②）にはいる可能性が残されている。

3. 結論

肯定形式でははっきり見えない現象が、否定形式になると、はっきり見えるようになるため、「シテイナイ」の意味を通して、「シテイル」の意味を観察することにする。

「シテイル」の意味は従来の先行研究では、「継続性」という特徴づけで扱われ、動作の継続や結果の継続（残存）を表すものであるとされた。図で表すと、以下のようになる。

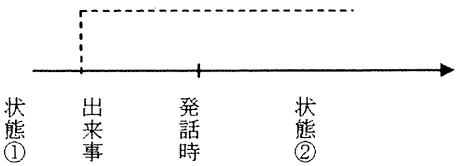

図2

しかし、前節で分析した否定の「シテイナイ」の意味特徴からみると、「シテイ

ル」の意味特徴も、「継続性」だけでなく、「継続状態はいつかそのうち終わる」という「区間」的な entailment が含まれている。図で示すと、以下のようになる。

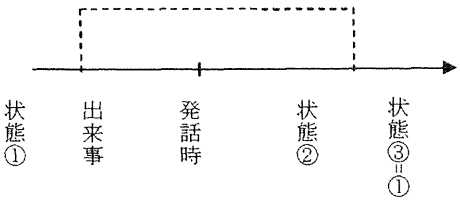

図 3

たとえば、「食べている」の「区間」的な性質は顕在的ではないかもしれないが、永遠に「食べる」という動作が続いていくわけではなく、そのうち「食べ終わる」という endpoint が含意されている。

ここで明確にしたいことは、「シテイル」であれ、「シテイナイ」であれ、すべて「区間性」という意味特徴をもつわけではなく、その一部にこの意味特徴があると主張する点である。

参考文献

井上優 (2001)「現代日本語の「タ」――主文末の「タ」の意味について――」『「た」の言語学』97-163　ひつじ書房

金田一春彦 (1950)「国語動詞の一分類」『言語研究』15:48-63.

工藤真由美 (1995)『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現―』東京：ひつじ書房

工藤真由美 (1996)「否定のアスペクト・テンス体系とディスコース」言語学研究会（編）『ことばの科学』7:81-136　むぎ書房

寺村秀夫 (1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』　くろしお出版

リュウ　ケン／人文社会科学研究科

(2011 年 11 月 30 日 受理)